

本年度評価結果の活用方策（案）

1. 本調査で得られた知見

- ・ ツシマヤマネコについて「よく知っている」あるいは「知っている」と回答した割合は約 27.4%、ツシマヤマネコが絶滅危惧種であることについて「よく知っている」あるいは「知っている」と回答した割合は約 21.6%であった。
- ・ ツシマヤマネコの保護増殖事業への支払意思と、対馬からの距離との間には相関関係が見られなかった。東京では全国の値よりも高い支払意思額が出た。
 - 日本全国では1世帯当たり 1,015 円に対し、東京都では 1,173 円であった。
- ・ 下島のツシマヤマネコを増やしていくことについて、重要であると答えた割合は全体の 34%であり、下表に示す他の個別の取り組みに比べ、支持回答比率は低い。（ただし、「どちらとも言えない」の回答が全体の 47.2%であった。）

表 ツシマヤマネコ関連の個別の取り組みへの支持率※

	質問内容	支持率
Q9	ツシマヤマネコの治療	82.8%
Q10	ツシマヤマネコの動物園での分散飼育	79.1%
Q11	繁殖個体の野生復帰	71.6%
Q13	交通事故対策	66.5%
Q14	野良ネコの去勢・避妊	63.2%
Q15	広葉樹を守るための獣害対策(シカ・イノシシの捕獲)	58.4%
Q16	ツシマヤマネコのための自然保護区の創設	63.1%
Q17	下島でのツシマヤマネコの増殖	33.9%

※各設問において「非常に重要であると思う」「重要であると思う」あるいは「賛成である」「どちらかという賛成である」と回答した割合。

- ・ ネコに対する好感度が、ツシマヤマネコ保護への支払意思にも大きく影響していることが明らかとなった。
 - ネコのことを「とても好き」「好き」と回答した人に限定した支払意思額は 1,601 円（ワイブル生存分析、中央値）で、全体の値よりも高い結果だった。
- ・ ツシマヤマネコ保護への取り組みでは、自然保護区を創設することに対する支持が、支払意思額にプラスに影響していることが明らかとなった。
 - 自然保護区に「賛成である」「どちらかといえば賛成である」と回答した人に限定した支払意思額は 1,837 円（ワイブル生存分析、中央値）で、全体の値よりも高い結果だった。

2. 活用方策（案）について

(1) 普及啓発の推進

- ・ 様々な媒体を通じて評価結果を公開し、認知度の向上を図る。
- ・ 希少なツシマヤマネコを増殖させることに対する価値が明らかになったことで、それを保護することの重要性を周知させる手段として利用することが可能である。

(2) 費用便益分析での利用

- ・ 本評価で得られた「ツシマヤマネコの保護増殖による便益」と、事業実施に必要な年間コストを用いて、費用便益分析を行うことが考えられる。
- ・ 分析結果は、関連事業の概要を対外的に説明する際の参考データとして活用する。

(3) ツシマヤマネコに関連する商品、企業の CSR 活動への利用

- ・ ツシマヤマネコ米のような地元農作物の他、投資信託「グリーンバランスファンド」(住友信託銀行) のように、ツシマヤマネコの保護を促進することを旨とする商品が既に生み出されている。
- ・ 経済的な価値を示すことで、成果を金額によって可視化できることになる。これによる企業等による環境保全型商品や CSR 活動における利用をさらに促進できると考えられる。



2010年に行われた住友信託銀行(当時)による「グリーンバランスファンド」のチラシ
応援企画の対象の一つは、ツシマヤマネコが生息する森の購入となっている